

**対馬暖流の流量は例年並みで、
奥尻島以北では沖を通過する流路となっています。
表層水温は、気温の影響により平年並みからやや高めとなっています。**

2019年10月に実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。
津軽海峡～石狩沖での対馬暖流の北上流量は0.8～1.6Sv (1Sv=10⁶m³/s) 程度と例年並みです (図1c)。流路は奥尻島より南側では沿岸寄りですが、奥島以北では瀬棚沖に分布する暖水塊の西側を通る、沖よりの流路となっています。
表層水温は、9月前半を中心に気温が高めだった影響で、全体的に平年並みから高めの傾向となっています。特に気温が高かった9月前半の直後に観測された北部 (9月下旬観測) では、平年より2℃以上高くなっていました (図1a, b)。
余市前浜水温は、8月以降、気温が高めであったため、水温も「平年並み」から「かなり高い」間で推移していました。

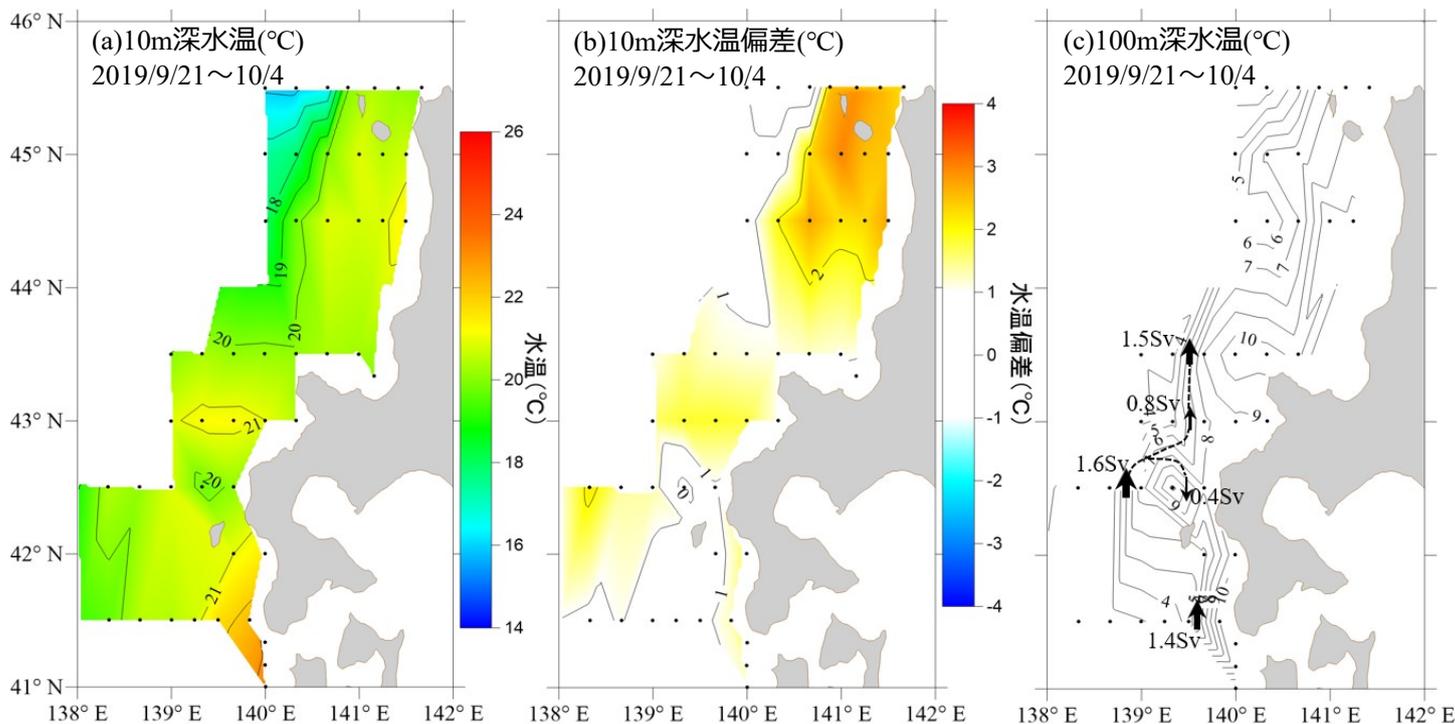


図1 2019年4月における (a) 10m層水温、(b) 10m層水温偏差 (30年平均値 (1989～2018年) からの差) の分布、(c) 100m層水温分布と対馬暖流の流路 (500db基準の地衡流より) (1Sv=10⁶m³/s)

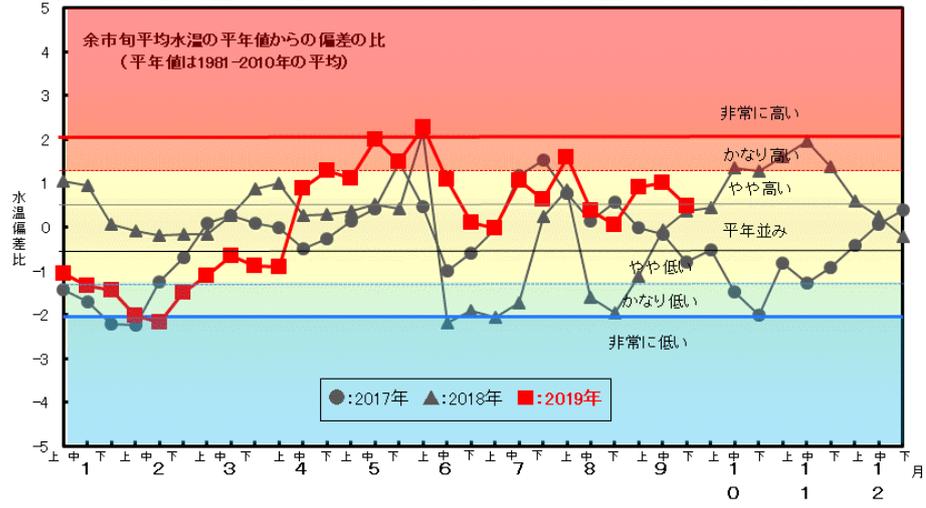


図2 余市前浜旬別水温の平年偏差比

最新版は
<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousuion/index.html>
もしくは「余市前浜水温」で検索